

刊夕日九十月十



定額一紙五錢... 發行所 常磐毎日新聞社... 印刷所 常磐毎日新聞印刷局

滿洲事變概要 (四)

福島聯隊區司令部發表

4 又安東では十九日支那砲艦一隻を武装解除した。最近安東よりの電報に依ると兵数は判明せぬが優勢な支那兵が通遼堡（鳳凰城北方約五千吉米）林家臺の我が安奉線に未襲して我が電信線を切断し爲に安東、奉天間の電話不通となつた、我が守備隊二十名は之に應戦中であるとのことであるが鶏冠山守備隊に救援請求中であるとも傳へられて居る（新聞報）

哈爾濱では（居留民約四千）人心逐次險惡の度を加へ二十日夜猛烈なる排日傳單を散布し二十一日以來我が居留民は義勇軍を編成して悲壯の決心を爲し哈市總領事代理よりも頻りに軍の救援を當局に求めて來て居る、二十一日の夜九時には我が總領事館、朝鮮銀行、日々新聞等に爆彈を投じ附近に暴行をしたが最近の消息に依ると二十二日午後以來通信杜絶、情況全く不明であるとも傳へられて居る（新聞）出先軍憲では多數の同胞を見殺しにするに忍びず相當苦慮し

其後軍の獨斷に依り二十一日正午頃を以て鴨綠江を越へて赴援し其先頭は二十日夜半奉天に到着したが本件に就ては二十二日の閣議で承認の上所要の命令が發せられたのである

四、結論 要するに今次の事件は支那の官兵が相當なる範圍に亘り計劃的の行動を仕掛けて來たのに對し我出先軍憲が突如として僅少なる部隊を以て廣汎なる任務達成の必要に迫られ其の初動を誤ることなく機宜の處置に出たものであつて取敢へず敵意ある支那軍隊を我が權益所在の附近から排除する事を以て軍行動の準備とし引續き敵軍行動の制肘に必要な措置（例へば鐵道の要點は劣勢なる我が鐵道利用を正確にし且敵軍の利用を豫防する爲にも一時確實に抑へることが必要であり、一旦占據せし敵の軍用設備も當分は所用兵力で警戒することが必要である）に任じて居るもので其間に切迫せる我居留民保護も考慮を要する事態となりつゝあるものと考へられる、從て支那の良民に對しては元より十分なる注意を以て加護を加へて居る而して事柄は出先きに於て偶發して我國の權益と我人

民の生命財産の保護の爲め已むを得ず執れる自衛的措置の範圍である支那の領土等に關し何等他意なきこと

は云ふ迄もない。尙中致しては目下の所要の善後策を逐次に講じつゝある。

（終り）

貸家

二階建 上八下、六、六、四半
公園下高臺にて夏涼しく冬頗暖し
住心地、眺め共に良い住宅
御望みの方は左記へ御相談下さい
全部修善致しました

平町南町
芹澤材木店
電話四七番

秋深きころ

新築福壽軒で
是非御試食を

静かで
味覺は
モダン

田町...丸新デパート角へ開店
御同伴のお方へ小座敷設備

西洋料理
支那料理
牛鳥なべ

福壽軒
電話二十八番

度量衡、計量器、吸入
用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

小型カメラの競寫會々員募集

主催 いづみや玩具店カメラ部
後援 常磐毎日新聞社

秋深く惠まれた好天氣、紅葉狩の絶好期節となりました。秋は又寫眞の一番よく寫る期節です。いづみやでは又こんな面白い催しを初めました。今日迄當店より御買上のカメラをお持ちの方もこれから御初めになる方も眞に絶好のチャンスです。カメラファン諸君よ何卒多數御入會下さい。秋晴れの樂しき一日を愉快に送らうではありませぬか

一、競寫會場所 天下の景勝地川前
一、時 日 十一月二日(第一日曜日)晴天の際
一、集合場所 當日前八時迄にいづみや玩具店前へ集合
今日迄に當店より御買上のカメラをお持ちの方及び競寫會料を御買上の方に限り入會出來ます

一、會員資格 當日前迄當店より御買上のカメラをお持ちの方及び競寫會料を御買上の方に限り入會出來ます

一、行きは川前迄歸りは小川郷より汽車にて往復
一、辨當及び汽車賃全部當店持(但シ會費五十錢)
一、申込期限 來る十月廿八日迄當店へ御申込を御渡し致します

一、會員 各自カメラを必ず御持參の事
御渡し致します

一、會費 當日會員券と引換に會員章を御渡し致します

一、不參者と云ひ共會費は返戻致しません

▼競寫々眞
一、當日會場川前より小川郷迄の間にて寫した寫眞を十一月五日迄に當店へ御出し下さい
優秀な寫眞には左の賞を差上ります

▼賞品
一等 フロニー判カメラ(金六圓五十錢)一組一人
二等 木製三脚 一臺、二人
三等 大ピン現像定着液 一組、三人
四等 小型アルバム 一冊、五人
五等 ショーリ紙 一打、十人
一、寫眞は一人にて何枚だしても差支へありませぬ但シ一人一賞の事
尙寫し方の御判りならぬ方は御遠慮なく御聞き下さい皆様のよく出來る迄責任を持って親切に御教へ致します

◇小型カメラも遂にジャパ式時代となりました
コダック型、リリーズ付ベスト判カメラ、ロールカメラ、プロニー判カメラ、其他新型各種澤山入荷致します

月曜論説

醜き感情闘争
喧嘩終へての棒チ切りの
縣議戦後の違反摘發ごつて
も一段落を告げた模様であ
るが未だ餘蘆は仲々にさめ
ない。政黨の争ひが主義政
策の意思の相違よりして堂
々と闘ふはよし、されど多
くは一にも感情、二にも感
情、果ては意地づくの闘争
と化し、敵派憎しの觀念よ
りして是れを獄舎に迄も叩
き込まねばならぬと互ひに
已れに傷もつ脛を忘れて、
違反の摘發ごつてに血眼と
なるの醜狀は寧ろ慘忍極り
なしと云ふべきである。殊
に夫れが反對派なるが爲め
のみならず同志間に於てす
ら此事あるは常軌の沙汰と
も思はれず、如何に闘争性
が人間の本能也と雖も此の
醜き蝸牛角上の争ひを見て
は嫌氣のさゝぬ者恐らく一
人もあるまじと思ふ。今や
眼を海外に放たば日支紛争
を對象とする國際聯盟の動
きは益々デリケートの度を
加へ、足許の國內は經濟界
の極度の行詰りに生活苦の
呪ひが満ち溢れて居る、此
の内憂外患交々至るの秋に
際して、數重なる感情のも
つれよりして意地づくの反
目を是れ事となすは地方人
心を益々惡化に導く基であ
つて損失是れに過ぐるはな
い、渦中に惑溺しつゝある
人々の自己清算を望むや切
である。

昭産博覽會具體計劃

大小二十四館の陣容

總裁は池田本縣内務部長
伏見平町長を會長として
●花の四月の一大壯觀●

平町の水道擴張工事の完成
を期とし且つ不況打開の一
策として來春平町に於て博
覽會を開催すべき計劃は既
記の如く是れが主催
母体たる 平産業獎勵
會が町會議員を中心として
平商工會員其他有志參加、
設立を見たる爲め急速に準
備進捗し愈よ來年四月一日
より五月十日迄の四十日間
平町十五丁目及び仲町の敷
地二萬八千八百坪を會場と
して大小二十四棟の各館を
新築し盛大に
開催する 事となり會
稱を昭産博覽會と定め
各役員を左記の如く決定し
た

松茸の名所

松茸栽培法に關して
農林省より通達來る

石城郡平窪村中平窪山林地
内は目下松茸が盛んにで、
ゐるので同地元民は之を名
所にせんと非常な意氣込み
で保護栽培中であるが今回
松茸栽培法に關し大要左の
如く農林省副業課より通達
があつた

- 顧問 縣知事川崎末五郎
總裁 内務部長池田繁治
副總裁 農務課長酒井百人
同 商工課長 野上七三
會長 平町長 伏見彦衛
副會長 縣議 井上茂作
同 萩原義雄
事務總長 町議 關内正一
事務平助役 酒井寅之助
評議員 町會議員全部
同 平商工會役員
産業獎勵會會長
縣議 野崎滿藏
協賛會會長町議青沼隆太郎

松茸のできる松林は一般
的に二十三年生より始つ
て六、七十年にいたる四
五十年間である一反歩當
りの收益が平均二十圓見
當て四十年間位になるわ
けで本業のわが三四百

然に傘の開いた即ち成熟
した松茸を黒塗盆或は黒
色殘等に一日伏せて置く
と白い粉様なものがつい
てくるこれが胞子であつて
種となるのである或はま
た賣物の松茸であつたら
前記の如き成熟したもの
を砂上に一夜列べて置く
と胞子は砂の上に落ちて
る、それを飛ばぬ様掻き
廻しておいてもよい一ケ
の松茸から二回位まで採
種ができる三回も四回も
胞子はでるがそれは米な
らばアラといふもので種
子として價値がない様だ
かくして採種した種子を
水にとかし、砂取りなら
ば砂のまゝ水に入れてか
くはんし澄み水を噴霧器
或は如露で前記の松山に
散布し上から落葉でもか
けて置けばよいのである
それから松茸の根も繁殖
の價値があるものだから
只捨てないで此れを松山
に種子として利用した方
がよい

中之作防波堤

落成式

十七日盛大に

既報全工費一萬二千百廿圓
を以て何等の補助を受けず
獨力遂に今日の竣工をみた
石城郡江名町大字中ノ作海
岸の防波堤落成式は去る十
七日午前十時より全町民の
狂喜舞裡に盛大に執行さ
れたが平土木監督所より小
林所長が臨席した

池坊華道研究

平町
六丁目池の坊龍生派華道教
授正木旭松女史は毎月第一
土曜日を期して華道研究會
を開催する事となり正木會
長親しく指導の任に當る由
にて一般の出席を歓迎する
と

養蠶組合總會

卅一日に開催

石城養蠶業組合では既報の
如く新法令による養蠶實行
組合の設立の爲め準備中であつたが卅一日午前十時團
体事務所にて總會を開き左の
事項を協議すると

秋季總會

廿四、五兩日
浪江町にて

平町人事

平區裁判所管内石城、双葉
兩郡各町村の戶籍會では廿
四、五の兩日双葉郡浪江小
學校に秋季總會を開催する
が平區裁判所よりは中島判
事及び書記が出席また平町
よりも伏見町長外戶籍係等
が臨席する筈

今日話

米國の故上院議員ジレットは決して
激昂するやうなことがなく、靖びな
い鐵のやうに冷靜な滑らかな性格で
あつたが、時々鋭い皮肉を飛ばして
注目を集めた。既に議會でも年功を
經た頃、或る記者から始めて議員になつた時の感
想を聞かれると「さうだなあ、誰れでも、同じこ
とだらうが、始めて登院した時は吾れながらよく
もかう堂々たる人たちの仲間になれたものだと思
しく感じたよ。けれどもだん／＼馴れて考てみる
と、この人たちがよくもまあ議員になれたものだ
と不思議でならないよ。」

- △長崎町三〇 館林喜内氏長女喜代
△下河原三 鈴木勝雄氏二女禮子
△振堀小路三〇 玉橋友之介氏六男
昭泰
△磯田町四六八 江信三郎(二九)宮
城縣松生郡飯野川町中島九九 伊
藤ちよ(二三)
△南町二六 星直子(四九)

新鮮な近代風景

今や模範飛行狂時代

空へ伸びる

滞空記録もぐんぐんアップ
一般の待望裡に大會は迫る

来る二十五日本社後援にて開かれる第二回郡下模範飛行機競技大會は早や餘す處一週間となつたので連日平町内の空地は勿論近郊の田圃などに於いて或は遠く内郷、好間方面に於いても盛んに試験飛行が繰返されてゐるが

秋晴れの空の下をト

ノボの如く抑揚飛翔する近代的風景の朗かさは思はず行人の足を止めて、アレヨ／＼との歓聲は朝に夕に大人からも子供からも一齊に發せられ實に至る處模範飛行狂時代を現出してゐるが之がフアンの意氣は全く爆破せんばかりで

中學生 や女學生や小學生

などは勿論今では既に子供の領域を脱し大人の競技として町の青年父兄の前へ登場した觀があり今回の大會には賞品も山と積まれてゐるのでフアンは熱狂ぶりは一層物凄く滞空記録もぐんぐんアップするばかりで空へ空へ伸びゆく

詩情の 新鮮な感覺は

一般間にも非常な興奮の渦を捲いて來る大會の参加機

青葉城下に

石城ツ子連敗
東北庭球大會

第十回東北實業庭球大會は十七日仙臺市連坊小路コートにて開催俱樂部堀吉田青年が獲得した

入山磐炭兩チーム

リーグ戦に勝殘る

決勝日取は變更
新進平商の躍進

磐中平商兩球場にて開催される磐陽野球後援會主催秋季リーグ戦は十七日午後二時十分橋本會長の始球式によつて愈々幕は切られた

平商 棄權鐵道
入山 14 3 磐中
磐中新メンバーで當つたが惨敗

入山 12 2 古河
入山 4A 3 平商

新進平商攻守共よく入山危ふくみえなが遂に敗れたのは顔負けの形
磐炭 20 10 平俱

入選生徒

美友會賞は
鈴木新夫君

磐中X會展は去る十七日から本日まで三日間平町訓育院にて開かれたが父兄や學生々徒其他一般觀覽者で非常な盛會を極めた、X會賞及美友會賞を得た生徒は左の十五名である(數字學年)

△美友會賞
共濟病院 5 鈴木新夫
△X會賞
1 酒井英世
2 菊池光國
3 吉川三郎
4 廣澤榮太郎
3 林武義
4 水野茂松
4 鈴木正治
4 村山儀一
5 中川信一
5 小野藤一
5 佐藤春雄
5 新妻雄一

今晩の部

後六、〇〇 合唱 外五曲
コーラチエチリア
後六、三〇 英語講座「初等科」一六 村岡博
後八、〇〇 管絃樂「交響曲」日本放送交響樂團
後八、四〇 小唄 未定
後九、〇〇 義太夫「心中」
荷揚グ場 5 若松光一郎
本を持てる女
ブル開き 5 渡邊行雄

明日の部

天網島「竹本清糸外後九、四〇 時報 全國ユース氣象通報 番組豫告生蘭相場
明日の部
前九、一〇 料理献立「燒松茸」
前一〇、三〇 家庭講座「小兒と感冒」鎮目專之助を極めた

今朝胡摩澤へ

米泥棒
花澤方襲る
犯人嚴探中

平町胡摩澤花澤商店方へ今十九日午前一時頃覆面の怪漢が忍入り店内を物色中家人に騒がれたので店先にあつた米一俵を擔ぎ逃走したので急報に接し平署では各方面へ刑事を飛ばし犯人目下嚴探中である

豐間村長逝く

葬儀は廿一日

石城郡豐間村長志賀兼吉氏(五)は豫てより肝臟癌の爲め保養中の處十八日午後三時頃遂に永眠した行年五十五

今般左記へ轉居致しました、御通知申上げます

平町長橋町四一番地
高木喬

明日のラジオ

報豫氣天
今晩は北西の風
小雨模様明日は北西の風晴れたり曇ったり

後〇、〇五 吹奏 樂海軍々樂隊

後二、二五 運動競技「野球リーグ戦」
後六、〇〇 童話劇「島のさくやき」名右屋童話劇協會
後六、三〇 英語講座「中等科」勝候登吉郎
後七、三〇 座談會「西洋人の日本觀」
後八、三〇 (佛敎聖歌) 吉田高等女學校生徒
後九、〇〇 歌舞技劇「假名手本忠臣藏六段目」中村扇雀外

後三氏は縣農會議員石城郡村長支會評議員其他の榮職にあり多年町村自治に盡力せる事として村民より惜まれて居ると尙葬儀は廿一日であると

自動車故二件

去る十七日午前九時頃平町尼子自動車部湯本平間乗合を大和田法保(三)が運轉内郷村御座地内國道を疾走中道路にて遊戯中の菅波惣太郎(六)を誤つて轢倒し全治五日の裂傷

去る十六日午後三時頃湯本町鈴木稻實方乗合自動車古川千彦(三)運轉同地内を疾走中自轉車で通行中の好間村小谷作茂平弟大河原重厚(二)を誤つて跳飛ばし左足其他に全治二週間の打撲傷

小説 七重帷

(六十三)

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

【載轉禁】

櫻散る夜 (7)
『あら、まあそれは御馳走さまですのね、どうぞ宜しくお願ひ申します。』

『だが如何したもんだらうな。最う屹度今頃は寝込んでしまつてゐるに違ひがないから、それを起こすのは少し面倒だ……』

『それにあの人の相手に出てゐるヨフラマてえ女は、こゝでも一番羽振をきかしてゐる大莫連なんだからなア』

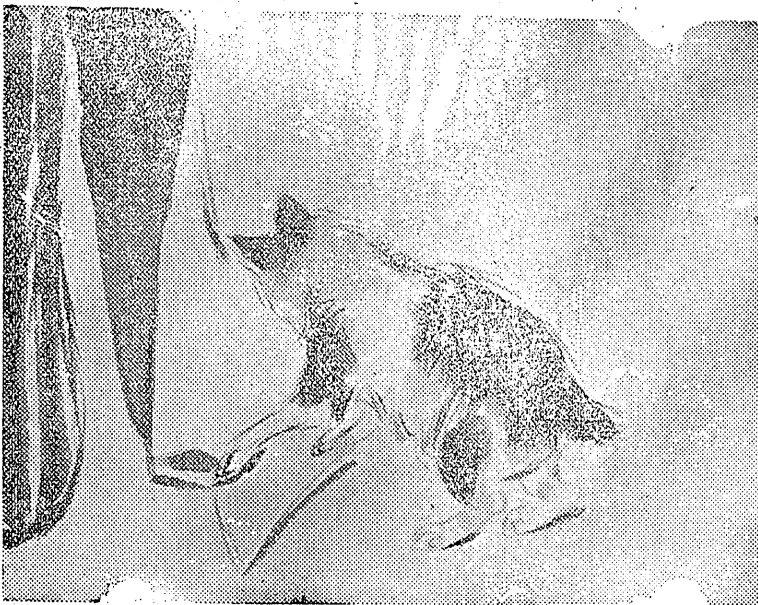
『獨語のやうに言つて腕組しながら考へ込んだ。』

『何といふ女ですつて……』
『ヨフラマ。へえー』

『何かあの女は露西亞から流れこんで来た女優だとかいへんですがね。いや、恐ろしい手取者ださうで、どんな男でもあいつに引懸つたが最期。骨まで喰はれつちまうてえ評判です。私たちの仲間ぢや其女にも符號がつけてありますよ。ライオネス……女獅子だつて、ハ、ハ……』
『まあ兎に角く當つて見ませう』
『あの……忘れてゐましたが小父さんは何と被抑るお名前です。伺つて置きたいのですが……』

『私ですか。私は鈴木儀助ツてんで……東京へ出掛けた節にはお尋ねしますよ。』
『是非お寄んなさいませう』

であらうか、喰入る様な寂しさを風にのせた波の囁も流れて来る。
露國女優と聞いた時に急に不快な思ひがグーッと胸を衝き上げて、二人のゐる場所へいきなり飛込んでやうたいやうな烈しい焔かきしきり胸のなかに十黒捲いたけれども落ちて考へて見ると、自分は今水の様に冷えてた男の心から全く切離されてゐる身である。愛のない男が他の女を愛したからといつて角芽立てる理窟がないかも知れぬ。やがましく言つたら斯く嫉妬を



たま、めら／＼と青い火を立て、ゐる籠を見詰めてぼうとなつてゐた。来た時はあれほどに賑やかだつた大きな建物のなかは森として靴音一ツ聞えなかつた。耳を澄ぼすと可なり離れてゐる十二天あたりの御の蔭

に再び彼の姿をひき入れるのであつた。
『仕方ないわ。あの人はまだ私の眞實の心がよくよく分つてゐないのよ迷……』
……迷ひの夢よ。夢ならいづれ醒める時があるでせう。それまで我慢しませうよ。』
憊う自分を慰めて冷静な心にかへつたもの、その時がいつ来るかと思ふと孤島に捨てられたやうな便りのない寂しさがひし／＼と身に沁むのであつた。
懐中鏡を出して髪をほつたを掻きあげ顔を直してから亂れた表紋をつくらふべく帯を解きにかゝつた時に、何處でか鈴の音がして憂らしい三毛の子猫がちよろりと駆出して来た。そして足下に曳つた裾と帯とにちやらつてゐる。
『まあ、可愛のねえ。』
子猫はしきりに歌治の足下に懐しそをにちやらけだして小さな鈴をリン／＼鳴らした。

◇ うなぎ料理 ◇
◇ いよいよ鰻のシーズン……
◇ 御用命はゼヒ江戸川へ——
江戸川
平館通前 館料理専門
鰻料理 (電話六七七番)

松島漁業組合
カキ貝 御料理宣傳賣出し
カキフライ 金廿五錢
スカキ 全
カキライス 全
カキなべ 金四十錢
十月十七日より
御料理 一の井
仕出し
電話一六七番

正木旭松
生花研究會謹告
龍生會々長 華道教授 正木旭松
池坊 龍生派
毎月第一土曜日を以て平町六丁目會長宅に於て最も親切丁寧を旨とし活方順序材料の撰定及出生等の説明をも精しく差し加へ研究會相催す事に定めました皆々様御暇が御座いましたら御遊び旁々御出下さい

毛糸と編物用具
全部新色 一、二、三
入荷致しました
相變らず御用命の程……
平田町 ハシモトヤ 糸店

冬服御櫛心
紺色柄物……三ッ揃……拾貳圓
最新柄 スコツヤ……三ッ揃……拾三圓五十錢
最上紺黒 サーツ……三ッ揃……拾六圓五十錢
高級品 ヴィンセット……三ッ揃……拾九圓
平町 正札堂洋服店 電四三六

無料検眼
各眼科院御用
正木旭松
根本時
根本時
根本時